

ヨシノボリの仲間

Rhinogobius sp.

ハゼ科



ヨシノボリの仲間

魚類

名前の由来

腹ビレの吸着力で「葦（ヨシ）の根元にも上るほど」といった語意に由来。漢字名：葦登

底生動物

特定種

該当なし。

形態的特徴

全長7cm。頭を正面から見ると、横に広がった形をしており、上唇が厚く、頬が膨らんで、眼が飛び出ている。背ビレが2つある。

左右の腹びれが癒合して吸盤を形成している。色斑の変異が大きい。メスの体側には7～8個の円形に近い斑紋が認

められるが、オスは全体に暗色で斑紋は不明瞭。頬に赤点が散在する個体もある（オスよりメスや幼魚の方が明瞭なことが多い）。

背ビレ・尾ビレ・尻ビレは濃い色であり、普通淡い色で縁どられる。腹側は青みを帯びる。

両生類
爬虫類

トンボ

類似種と見分け方

ウキゴリ、ジュズカケハゼ。

ウキゴリやジュズカケハゼは、口の切れ目（口角）が目の

後方にまで及ぶのに対し、ヨシノボリ類は目の前方にとどまる。

チョウ
ウ

樹木



ヨシノボリの仲間



類似種ウキゴリ。口の切れ目が目より後ろ

(在来種)
草花

(外来種)
草花

一生

産卵期は5～9月。ふ化後仔魚は海または湖へ下り、そこで生活する。1.5cmほどになる8月頃（宍道湖周辺の場合）に再び川をのぼって、川での生活を始める（産卵のための

遡上ではない）。

琵琶湖の場合1年で3cm以上になってすべて成熟する。寿命は不明。

哺乳類

生活サイクル（大まかな推測）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
産卵期<河川>					■							
孵化・降海期<河川>					■							
湖沼または海						■						
河川期	■							■				
成魚期					■				■			
							産卵			寿命は不明		

(水辺)
鳥類

(葦原・樹林)
鳥類

生息環境・分布

湖沼や平野部の緩い流れの川で、礫底部から泥底部までに生息する。同属他種の魚が棲めないような、石などが全くなく、汚濁が進んだ水域にも多くいる。

分布：日本のほか、朝鮮半島に分布。

国内では、琉球諸島を除く全国に分布（淡水湖と汽水湖お

よびその流入河川が多い。他種のヨシノボリが多い良好な環境の河川には河川には生息しないことが多いという）。北海道全域に分布し、十勝の河川に広く分布している。ただし下流域に限定される。

食性

動物性。成魚はカゲロウやトビケラなど水生昆虫の幼虫が多い。イトミミズも食うという。湖に流下した稚魚は底生

生活にはいると、ユスリカの幼虫を多く採るようになる。

繁殖生態

産卵期は5～9月。産卵場所は川底の石の下面。泥の固まりの下面に産むこともある。

産卵期のオスの体側には、青色と朱色の小さな斑紋が網目状に現れるが、産卵盛期になると体全体が黒くなり斑紋はほとんどわからなくなる。また、オスメスともに腹部全体が青色または淡い黄色になる。

オスは石の下にある砂を口にくわえては吐き出し、巣を掘る。つがいとなったメスは巣にはいると逆さまになり、石の裏面に産卵を始める。メスが石裏にびっしりと一層に産卵を続ける中、オスも逆さまになって放精する。

卵は長卵形（ナス形）（長い径で1.8～3.0mm《小卵型一般の特徴》）。

他生物との関わり

成魚はカゲロウやトビケラなど水生昆虫の幼虫が多い。イトミミズも食うという。湖に流下した稚魚は底生生活には

いると、ユスリカの幼虫を多く採るようになる。

興味深い話

■ヨシノボリ類はかつて1つの種とされていたが、近年色斑の違いから10以上の「型」に分けられるようになった。そして配偶者選択実験（いわゆるお見合い実験）やアイソザイム分析という方法での調査結果から、これらの型の間には生殖的隔離が成立している場合が多く、少なくとも9種に分けられることがわかったという。「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚(山と溪谷社)」でトウヨシノボリ（かつての橙色型）の他に、シマヨシノボリ（横斑型）、クロヨシノボリ（黒色型）、オオヨシノボリ（黒色大型）、ヒラヨシノボリ（南黒色大型）、ルリヨシノボリ（るり型）、アヤヨシノボリ（モザイク型）、キバラヨシノボリ（腹の黄色い中卵型）、アオバラヨシノボリ（腹がるり色の中卵型）と新和名が提案された。（まだ分けられる可能性もあり、

トウヨシノボリに関しては日本産ヨシノボリ属魚類の中で最も変異に富んでいて、橙色型の他、かつての宍道湖型、房総型、湖沼型などが含まれている）

■北海道ではトウヨシノボリとルリヨシノボリが知られている。（道央の日本海側と道南）

■ヨシノボリ一般の料理法としては、小型のものを唐揚げ・卵とじ・みそ汁などに、大型のものを飴焼きや佃煮にする。大群で河川をのぼる幼魚をウキゴリの幼魚とともに捕獲して、佃煮にするともいう。

■飼育は容易で、イトミミズを与えるとよいという。

■十勝地方のアイヌ語名は不明。他の地方では、「アカムコルペ」「アカムシチュエ」「アカムコルチュエ」などと呼ばれる。

配慮事項

降湖性、降海性を示すので、行き来ができるような状態を必要とする。同じヨシノボリ属の他の魚が生息できないような、石や礫が全くなく、汚濁が進んだような水域にも多

く棲み、産卵する。湖沼や養殖池でも繁殖するのでアユなどの各種放流魚に混入して放流され、各地に分散・定着している。

参考文献

- 「北海道の淡水魚」稗田一俊、北海道新聞社 1984
- 「図説 魚と貝の大辞典」望月賢二 監修、魚類文化研究会 編、柏書房 1997
- 「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監修、山と溪谷社 1989
- 「川づくりのための魚類ガイド」北海道河川環境研究会、(財)北海道建設技術センター、2001
- 「原色日本淡水魚類図鑑」宮地傳三郎・川那部浩哉・水野信彦、

- 保育社、1963（1976全改訂新版）
- 「検索入門 川と湖の魚②」川那部浩哉・水野信彦、保育社、1990
- 「川の生物図典」奥田重俊・柴田敏隆・島谷幸広・水野信彦・矢島稔・山岸哲監修、(財)リバーフロント整備センター編集、山海堂、1996
- 「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(鳥水辺) 類

(葦原樹林) 鳥類